



# 通信

HP 学校だより  
R6. 11. 27  
NO. 30  
文責 伊藤美佳



## おもちゃまつり

26日(火)の5時間目に2年生が1年生を招待して「おもちゃまつり」を開きました。これは生活科の授業の一場面です。「おもちゃ」は1年生を笑顔にするために、2年生の子どもたちが考え、試行錯誤しながら作ったものです。この1時間で、たくさんの笑顔が見られたので、2年生の子どもたちの目標は達成できたことでしょう。

この会を開くために、子どもたちが最初にしたことは「どんなおもちゃを作りたいか決めて、自分で作ってみる」です。本や動画、見本のおもちゃなどを見て、こんなおもちゃを作りたいと決め、実際に作ってみます。作ったもので遊び、友達にも遊んでももらいます。そうやって「自分でおもちゃを作り、遊ぶ」という経験をします。

次に、実際に1年生に遊んでもらうおもちゃを決め、友達と協力しておもちゃ作りをします。自分で作っていたときは、好きなように作ることができましたが、友達と協働するとなると、「話し合い」や「折り合いをつける」ことが必要になります。ここが大切な学びです。自分の思い通りにならないことがあることを経験しつつ、仲間と協力すると、一人で作るよりも大きくて楽しいおもちゃを作ることができる、こんなことを実体験しながら学んでいきます。

おもちゃができればそれで終わりではありません。他の人に遊んでもらってよりよくするためのアドバイスをもらいました。あるクラスは1年生に遊んでもらってからインタビューをし、そこから改良点を自分たちで見つけました。他のクラスは3年生(昨年おもちゃまつりを開催した経験者)にアドバイスをもらって改良したようです。どちらも、作ったものが自分たち以外の人に受け入れられるのか、楽しんでもらえるのかという視点をもっています。「自分が楽しければいい」という考えになりがちですが、「人の意見を受け入れ、もう一度自分たちで考えることでより良いものができる、より良くなる」と学んでいることに感心しました。

最後に、「おもちゃまつり」の開催です。自分たちでリハーサルをし、万全の態勢で「おもちゃまつり」に臨んでいる子どもたちの自信に満ちた顔が、これまでの学習の確かさを物語っています。

既存のものではなく、自分たちで創意工夫しながら作り上げたおもちゃを楽しんでもらえたという経験は、一生の宝物になることでしょう。

